

## 第 30 回 通 常 総 会 記 録

日時 平成12年 6 月 3 日 午後 1 時30分～

場所 富山県厚生連高岡病院 地域医療研修室(Ⅰ)

### I. 総会議事の概要

会 員 総 数 248名 うち出席者47名 委任状152名

会 長 挨拶 豊田 務

議 長 選 出 厚生連本所 加納弥一

議事録署名人 小杉町 玉井 真  
新湊市 佐伯秀信

書 記 野尻泰生, 藤田勇治

議 事

第 1 号議案 平成11年度事業報告書, 財産目録, 収支決算報告承認について

第 2 号議案 平成12年度事業計画及び収支予算承認について

第 3 号議案 役員の一部改選について

第 4 号議案 顧問の一部変更承認について

特 別 講 演 国立環境研究所 総合研究官 安藤 満

演 題 「地球温暖化による健康影響」

### II. 平成11年度事業報告書

(平成11年 4 月 1 日～平成12年 3 月31日)

#### I. 事業の概況

平成11年度の事業の終了に当たり、事業の概況について報告致します。

1993年12月のガット・ウルグアイ・ラウンドの農業合意とWTO体制への移行にともない、日本は農産物の全面自由化へと進展し、食料・農産物輸入がますます拡大しています。さらに、'99年6月に制定された「新農業基本法」では、食料の安定供給については、国内自給を揚げつつも、輸入や備蓄でまかなう方向が明示されております。事実、その後を示されたカロリーベースでの食糧自給目標は、現在の40%を10年でようやく45%にするという極めて低い目標しかしめられておりません。さらに望ましい農業の担い手は、法人などの大規模経営を良しとし、現在、圧倒的多数を占める家族農業を支える方向はほとんど見られません。

このような背景により、食料輸入は拡大し国内農業をますます圧迫しています。

しかし、多く占める輸入食品にはポストハーベスト農薬汚染や、O-157、狂牛病問題、家畜の口蹄疫や遺伝子組み換え食品の大量輸入等、安全性に問題のあるものが多く国民の健康を脅かす問題として危惧されています。さらに、農業を始め様々な化学物質が環境ホルモンとして働き、人間を始め生

物の生存そのものを危うくする問題として注目を浴びています。

しかし、世論調査による多くの国民は国内の食糧自給率を高め、国内農産物を食べることを望み、安心・安全・新鮮な地元農産物への期待が高まっており、地域の農業・農村を守り農業の担い手の健康を守ることがますます重要になっております。

本会ではますます厳しくなる農業生産や農村に生活する人々の豊かで健康な生活を築くため、会員の皆さまと共に調査研究を続けてきました。

昭和45年より続けています農業災害事故調査、また昭和55年より続けています農薬中毒臨床例調査を今年度も実施しました。また、農薬の生体内残留の問題など農業医学的テーマについて取り組んでまいりました。

農村における健康状態の把握についても高岡、滑川の農村検診センターを始め各関連機関で取り組まれています。農業に係わることが、生き甲斐を保ち、痴呆予防にも一定の役割を果たしていることについても新たな知見を得ています。

これらの研究成果は、平成11年10月に松江市で開催された第48日本農村医学会や11月に開催された中国・広州市で開催された第8回アジア農村医学会、並びに平成12年3月開催の第17回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会など、各種学会や本会会誌で発表しています。

以上、本会の活動は医療関係者はもとより行政、農協および農村の健康と医療に関心のあるあるゆる方々の協力により実施されてきました。次年度も引き続き事業計画に基づき、さらに研究調査に鋭意取り組んでいきたいと思っておりますので、会員各位の絶大なるご協力をお願い致します。

最後に農協各連より絶大なるご援助をいただいておりますことに対して、厚くお礼申し上げます。

## II. 主な事業項目の概要

### 1. 第30回総会（平成11年6月12日、富山県農協会館）

- ①議 事
  - ・平成10年度事業報告、収支決算承認
  - ・平成11年度事業計画、収支予算案承認
  - ・役員改選、顧問承認

### ②特別講演

講 師 愛知県厚生連 知多厚生病院 院長 片 桐 健 二 氏  
演 題 「地域の協力の力で保健・医療・福祉の連携を探る」

### 2. 研究調査活動

#### (1) 農薬の生体影響に関する調査研究

##### ①富山県における農薬中毒の実態調査

県内の内科、外科、小児科、皮膚科、眼科を標榜するすべての医療機関を対象に昭和55年より農薬中毒の臨床例調査を実施している。詳細報告のあった10例中、9例が自殺、また4例がバラコート剤であった。

##### ②農薬散布者の健康調査

有機リン剤の生体内残留について、外科手術時に体脂肪を採取した。これまで、脂肪中の有機リン剤分析方法について検討し、その回収率はほぼ満足いくことが確認できた。現在、脂肪中有機リン剤分析中であり、農薬の生体内残留について検討中である。

また、尿中代謝物の排泄状況について、通年にわたり早朝尿を採取し続け、農薬散布時期、非散布時期における排泄状況を検討した結果、長期に生体内に残留している可能性が考えられた。また、食物に残留する有機リン剤が持続的に排泄されていることも否定できないと考えられた。

## (2) 農業災害事故調査

### ① 農業機械による農業災害事故調査

県内の全ての整形外科、外科、眼科、接骨院に臨床例の有無を問う第一次調査をし、症例有りの医療機関に詳細調査票を送付し、農業災害事故の症例を収集した。また、共済連の生命共済・傷害共済証書を検索して、当該年度における農業機械による災害事故の収集につとめた。例数は、例年より若干多く約120例前後であった。また、年々受傷者が高齢化する傾向にある。

### ② 農業機械以外による農業災害事故調査

上記調査と同様に、農業機械以外による農業災害事故についての調査を実施した。

## (3) 農村における生活習慣病の発症要因に関する調査研究

20才前後の女性約100人について、骨密度及び生活習慣に関するアンケート調査を実施した。その結果、運動習慣、特にバレーボールやバスケットボールなど足の骨に負荷をかけるスポーツ経験者の骨密度は明らかに高かった。

今後、さらに若い女性を中心として例数を増やし、運動負荷のみならず、農作業の負荷と骨密度の関係を明らかにし、骨粗鬆症予防の方途について検討する必要があると考えられた。

## (4) 簡易脳機能テスト「かなひろいテスト」と生活習慣の関連について

講演会等に参加した人を対象に簡易脳機能テスト「かなひろいテスト」を実施した。合わせて生活習慣に関する20項目のアンケート調査を実施した。

「かなひろいテスト」を標準化し、生活習慣との関連について検討した結果、様々な生活習慣項目において積極的な群は、消極的な群に比較して明らかに「かなひろいテスト」の成績が良かった。

農業従事者と非従事者ではその差は必ずしも明瞭ではなかった。しかし、命の営みに感動する時は、非感動群に比較して「かなひろいテスト」成績は良く、農業を通じて命の営みに係わることで、ボケ防止の一助となることが示唆された。

## 3. 各種研究集会参加

### (1) 第48回日本農村医学会

- ・開催日 平成11年10月28日(木)～29日(金)
- ・開催場所 松江市
- ・学会長 島根医科大学教授 山根洋右
- ・会員発表 富山県より6題

①富山県における農業機械災害事故の29年間の推移

澁谷 直美 他

②健康観の変化が日常生活習慣に及ぼす影響

吉岡 香代 他

③肥満に対する意識調査

- 体重が減少した肥満者との比較— 坪野 由美 他
- ④「命の営み」への関わり脳機能テスト  
 (「かなひろいテスト」)成績との関連について 大浦 栄次 他
- ⑤生活習慣と脳機能テスト(かなひろいテスト)の関連について 岸 宏栄 他
- ⑥心臓カテーテル検査における橈骨動脈穿刺法の安楽性への検討 藪下 裕美 他
- (2) 第8回アジア農村医学会
- ・開催日 平成11年度11月12日(金)～14日(日)
  - ・開催場所 中国・広州市
  - ・学会長 中国農村衛生協会会長 張自寛
  - ・会員発表 2題
- ①Senility and reason for living  
 (老化と生き甲斐) 越山 健二 他
- ②Enviroment investigation such as air pollution  
 by the paticipation of rural inhabitant  
 (農村地域住民との共同による大気汚染等環境調査) 大浦 栄次 他
- (3) 第17回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会
- ・開催日 平成12年3月4日(土)
  - ・開催場所 厚生連高岡病院 地域医療研修室
  - ・会員発表 12題
- ①地域のお年寄りの「健康とふれあい」を支えるミニ  
 宅老所「あれあいホーム」 畑 泰子
- ②J A入善町における高齢者福祉活動 清水由美子
- ③J Aとなみ野における高齢者福祉活動 高橋真由美
- ④生活習慣と脳機能テスト(かなひろいテスト)の関連 大浦 栄次 他
- ⑤富山県における飲酒様態(2)
- 漁業地区住民と林業従事者の飲酒様態— 黒牧 裕子 他
- ⑥職員検診における高コレステロール血症既往者の実態調査 佐伯 久子 他
- ⑦二次検診受診率の向上をめざして
- 胃カメラ検査予約に携帯電話を用いて— 加藤 直美 他
- ⑧継続受診者の成績評価に関する一考察
- BMIの積算を試みて— 岸 宏栄 他
- ⑨富山県における農業災害事故の29年間の推移について 洪谷 直美 他
- ⑩炭酸カルシウム製剤のコンプライアンスの確保をめざして 宮前三恵子 他
- ⑪胃内視鏡検査を受ける患者の不安調査(Ⅱ)
- アンケート調査より不安軽減への援助— 水野 泰子 他
- ⑫肺切除患者のための効果的非痰法(Ⅲ) 炭谷真由美 他

#### 4. 印刷物の発刊

会誌の発刊

Ⅲ. 主な行事（平成11年4月1日～平成12年3月31日）

年月日	主な行事	
	事項	場所
11. 4. 30	幹事会	厚生連会議室（6名）
5. 20	平成10年度第2回理事会	厚生連会議室（7名）
6. 12	第30回総会	富山県農協会館
6. 25	日本農村医学会理事会	松江市（越山名誉会長）
9.	農薬中毒・農業災害（前期）調査	
10. 28～29	第48回日本農村医学会	松江市（会員発表6題）
11. 12～14	第8回アジア農村医学会	中国・広州市（越山・大浦）
12. 1. 14	農業災害コード化打合会議	佐久病院（大浦）
1.	農薬中毒・農業災害（後期）調査	
1. 20	平成11年度第1回理事会	厚生連会議室
1. 26	里芋・子芋はずし労働負荷調査	
1. 28	日本農村医学会理事会	東京（越山名誉会長）
2. 15～16	若年女性の骨密度調査	厚生連看護専門学校
2. 25	農薬中毒班会議	茨城県（大浦）
3. 4	臨時総会・第17回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会	厚生連高岡病院

## IV. 総 会

第30回通常総会

平成11年6月12日

総 会 日 現 在 会 員 数		285名
出席会員数	実際に出席した会員	51名
	代理議決	0名
	書面議決	177名
	計	228名
<p>重要な議事及び議決事項</p> <p>第1号議案 平成10年度事業報告書、財産目録、収支決算書承認について 原案承認</p> <p>第2号議案 平成11年度事業計画案及び収支予算案承認について 原案承認</p> <p>第3号議案 役員の改選について 原案承認</p> <p>第4号議案 顧問の承認について 原案承認</p> <p>※議事終了後、講演会を開催</p> <p>特別講演 愛知県厚生連 知多厚生病院 院長 片 桐 健 二 氏 「地域の協同の力で保健・医療・福祉の連携を探る」</p>		

## 財 産 目 録

(平成12年3月31日現在)

(単位：円)

内 訳	金 額	備 考
預 金	441,411	
計	441,411	

## 平成11年度収支決算書

収入の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 引 額	備 考
会 費 収 入	235,000	248,000	13,000	
会 費	235,000	248,000	13,000	248人×1,000円
特別負担金	4,680,000	4,680,000	0	
特 別 負 担 金	3,480,000	3,480,000	0	4連×870,000円
調 査 研 究 協 力 費	1,200,000	1,200,000	0	厚生連より繰入
雑 収 入	1,288	68,310	67,022	
雑 収 入	1,288	68,310	67,022	利息など
前期繰越金	474,339	474,339	0	
収 入 計	5,390,627	5,470,649	80,022	

支出の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 引 額	備 考
会 議 費	500,000	417,175	-82,825	
総 会 費	200,000	212,090	12,090	
役 員 会 費	300,000	205,085	-94,915	
事 業 費	4,600,000	4,502,723	-97,277	
研 究 調 査 費	2,800,000	2,412,604	-387,396	各種調査研究
専 門 委 員 会 費	30,000	0	-30,000	〃 打ち合わせなど
研 究 集 会 費	300,000	347,191	47,191	日本農村医学会参加費など
会 誌 発 行 費	1,200,000	1,499,400	299,400	発行費
編 集 委 員 会 費	30,000	0	-30,000	
通 信 費	120,000	120,000	0	
消 耗 品 費	80,000	123,528	43,528	
備 品 ・ 什 器	40,000	0	-40,000	
旅 費 交 通 費	200,000	97,340	-102,660	
旅 費 交 通 費	200,000	97,340	-102,660	
雑 費	70,000	12,000	-58,000	
雑 費	70,000	12,000	-58,000	
予 備 費	20,627	0	-20,627	
予 備 費	20,627	0	-20,627	
支 出 計	5,390,627	5,029,238	-361,389	
次 期 繰 越 金	0	44,411	44,411	

# 平成12年度事業計画

## I. 事業方針

富山県内の農山漁村におけるすべての健康問題を調査研究し、明るく健康な村づくりに寄与する。

特に、農薬中毒や農業災害、職業性疾患等農業医学的分野及び、農村環境や農村生活に起因する農村医学的分野について調査研究を行う。さらに、命を育む農業を営む事の精神的、社会的、文化的意義を明らかにし、心豊かな農村づくりに寄与する。

## II. 事業計画概要

1. 農村の職業性疾患の調査研究
  - ・農村の地域環境並びに農作業の特殊性に起因する健康障害の調査研究
2. 農業災害の調査研究
  - ・農業機械の健康に及ぼす影響についての調査研究、特に騒音及び振動の影響に関する調査研究
  - ・農業機械及び農業機械以外による農業災害事故調査研究
3. 農薬の生体に及ぼす影響に関する調査研究
  - ・農薬中毒の実態調査
  - ・農薬の生体に対する急性及び慢性的影響に関する調査研究
  - ・農薬の生体残留に関する調査研究
4. 健康管理に関する調査研究
  - ・農業従事者の健康状態の把握と保健指導
  - ・農業従事者の健康管理に関する調査研究
  - ・農業従事者の成人病の実態調査とその対策に関する調査研究
5. 農村における社会医学的研究
  - ・農村における高齢者に関する調査研究
  - ・社会変動による農業従事者の生活・健康に及ぼす影響についての調査研究
  - ・都市近郊農村における社会医学的研究
  - ・農村における食生活の変化と健康影響に関する調査研究
6. 農村における特殊疾患の調査研究
  - ・伝染病、風土病等の地域多発疾患の疫学的調査研究
7. 農村における環境汚染と健康影響に関する調査研究
8. 乳幼児並びに学童の健康調査研究
9. 農村の健康会議、健康教室等の実施
10. 研究会誌並びに必要な印刷物の発行
11. 研究集会の参加及び開催
12. その他目的達成に必要な事項

## III. 主な事業計画

### 1. 主な調査研究

- (1) 農業災害に関する調査研究



- ①富山県における農業機械災害事故調査
- ②富山県における農業機械以外による農業災害事故調査
  
- (2) 農薬中毒に関する調査研究
  - ①富山県における農薬中毒の臨床例の収集とその問題点の解析
  - ②農薬散布者の健康調査
  - ③有機リン剤の体内残留に関する調査研究
  
- (3) 農村におけるアレルギー疾患に関する調査研究
  - ①農村地区における花粉症に関する調査研究
  - ②農村住民のアレルギー疾患に関する調査研究
  
- (4) 農作業及び農作業環境と健康障害に関する調査研究
  - ①各種農作業における作業環境及び労働負荷に関する調査研究
  
- (5) 農山村における騒音と聴力障害などに関する調査研究
  - ①農業機械の騒音分析及び作業中騒音暴露量の測定
  - ②農作業騒音防止に関する調査研究
  
- (6) 農村環境の変化と健康影響に関する調査研究
  - ①農村における緑の調査
  - ②農村における大気汚染に関する調査研究
  - ③農薬による環境汚染に関する調査研究
  
- (7) 農村における生活習慣と健康に関する調査研究
  - ①食生活と健康に関する調査研究
  - ②農村生活の変化と健康障害に関する調査研究
  
- (8) 農村におけるプライマリーヘルスケアに関する調査研究
  - ①農村における健康管理運動に関する調査研究
  - ②農村検診における各種疾患の要因分析に関する調査研究
  
- (9) 農村における高齢者問題に関する調査研究
  - ①農村高齢者の生きがい因子の解析に関する調査研究
  - ②農村におけるコミュニティ・ケアに関する調査研究
  
- (10) その他、農村における各種健康・保健調査の実施
  - ①肥満、アルコール、肝疾患などに関する調査研究
  - ②農村における成人病に関する調査研究
  - ③その他

## 2. 各種研究集会参加・交流並びに開催

### (1) 学会への参加

①第49回日本農村医学会への参加（平成12年10月，津市）

### (2) 第18回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会の開催

平成13年2月3日（土），厚生連高岡病院

### (3) 北陸3県の農村医学研究の交流

### (4) 中国，河南省との農業災害，農薬中毒，高齢者の実態調査の共同研究

## 3. 会誌等の印刷物の発刊

①会誌の発刊

②農村医学に関する啓蒙資料の作成

③その他

## 4. その他目的達成に必要な事業

## 平成12年度収支予算書

収入の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	備 考
会費収入	248,000	
会 費	248,000	248人×1,000円
特別負担金	4,680,000	
特 別 負 担 金	3,480,000	4連×870,000円
調 査 研 究 協 力 費	1,200,000	厚生連より繰入
雑収入	1,310	
雑 収 入	1,310	利息など
前期繰越金	441,411	
収 入 計	5,370,721	

支出の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	備 考
会議費	500,000	
総 会 費	200,000	
役 員 会 費	300,000	
事業費	4,580,000	
研 究 調 査 費	2,800,000	各種調査研究
専 門 委 員 会 費	30,000	” 打ち合わせなど
研 究 集 会 費	280,000	農村医学会参加費, 発表集会など
会 誌 発 行 費	1,200,000	発行費
編 集 委 員 会 費	30,000	
通 信 費	1,200,000	
消 耗 品 費	80,000	
備 品 ・ 什 器	40,000	
旅費交通費	200,000	
旅 費 交 通 費	200,000	
雑 費	70,000	
雑 費	70,000	
予備費	20,721	
予 備 費	20,721	
支 出 計	5,370,721	

## 役員・顧問名簿

名誉会長

越山健二（全国国保診療施設協議会顧問）

平成12年6月23日

理事	役員
豊田 務	サンバリー福岡病院 院長
林 時彦	県健康課 課長
後谷 清文	県医務課 課長
名畑 清信	県普及技術課 課長
飯田 恭子	保健所会会長・高岡保健所 所長
加藤 一之	保健所長会副会長 砺波保健所長
石田 礼二	藤の木病院
熊谷 武夫	前高岡保健センター 所長
舘野 政也	富山県赤十字病院 院長
本多 幸博	富山県医師会学術担当理事
北村 敬	富山県衛生研究所 所長
渡辺 正男	前富山医科薬科大学教授
西能 正一郎	西能病院 理事長
北川 鉄人	北川クリニック 院長
寺中 正昭	寺中クリニック 院長
小川 忠邦	八尾総合病院 副院長
橋川 弘勝	厚生連高岡病院 院長
刑部 侃	厚生連滑川病院 院長
亀谷 富夫	厚生連高岡病院 副院長
藤畑 敏明	富山県農協中央会 農政生活部次長
石川 清一	全農富山県本部生活部 部長
安宅 井かを	富山県厚生連 専務理事
中井 法定	富山県農協女性組織協議会 会長
高田 山睦	富山県農協青年組織協議会 会長
	富山県生活指導員協議会 会長
監事	役員
伊藤 達也	厚生連高岡病院 副院長
佐々木 正	厚生連滑川病院 副院長
顧問	役員
中沖 豊	富山県知事
正橋 正一	富山県市長会 会長
溝口 進	富山県町村会 会長
宇野 義知	富山県医師会 会長
奥田 紀元	富山県厚生部長
上江 崇春	富山県農林水産部長
松井 信勝	富山県農協中央会 会長
加藤 昭一	富山県信連 会長
江西 甚昇	全農富山県本部運営委員会 会長
川崎 善三	富山県厚生連 会長
山本 征隆	全共連富山県本部 本部長
*学術顧問 長谷田 祐作	元国立富山病院 院長

# 投 稿 規 定

**募 集 原 稿** 農村医学の分野における独創的な研究および会員のたよりとします。

**投 稿 の 資 格** 投稿者は原則として富山県農村医学研究会会員とします。

**原 稿 の 送 り 先** 富山県農村医学研究会事務局宛（富山県高岡市永楽町5番10号）

投稿原稿の掲載選択順位は編集委員にご一任下さい。

## 論文の原稿の形式

1. 本文は本会規定の原稿用紙に、口語体、平かな、新かなづかいで、できるだけ簡潔に横書して下さい。
2. 外人名、地名、その他の固有名詞、特別な化合物名などは、できるだけ原綴のまま（Pasteur, Prostigmin 等）とし、動植物名は日本名の次に学名（ローマ字 Moccusrusus, 山椒藻 Salvinabatah 等）を記入する。計量にかんするものはメートル法に準拠し、次のような略号を用いる。メートルm, センチメートルcm, グラムg, キログラムkg等。
3. コンマ（,）ピリオド（.）コロン（:）ゴシックの使用等に気をつけて下さい。
4. 図表は、そのまま製版できるように上質ケント紙または方眼紙に墨で、ていねいに書いて下さい。  
（図表は、特殊なものを除いては、出来上がり左右6.5cmに製版しますから、その2倍か3倍に書いて下さい。）  
図表の文字は、こちらで記入しますから、鉛筆で書いて下さい。
5. 写真は出来るだけ鮮明なものをお送り下さい。
6. 本文に挿入する図表、写真については、挿入場所を原稿の欄外に明記（末記）して下さい。

**無 料 掲 載** 原稿用紙20枚（刷り上がり5頁）までとします。ただし挿入附図、附表を含みます。

**有 料 掲 載** 超過頁の印刷代、附図、附表の製版代の実費は投稿者の負担とします。ただし刷り上がり15頁を限度とし長篇の論文を5頁ずつ分割掲載することは認められません。

## 文 献

1. 雑誌の場合 著者名、標題名（雑誌指定の略号）、巻数（号数）、頁一頁、発行年月（昭和52.5のごとく。）
2. 単行本の場合 著者名：標題名、発行所、発行地、発行年月（必要ならば引用の箇所の頁を最後に）

**印 刷** 印刷の部数や体裁などについてはある程度まで、実費をもってご希望に応じます。ただし別刷30部までは無料で投稿者に進呈、30部以上は実費をご負担願います。

## 編 集 後 記

事務局が富山から高岡に移り、色々慣れない環境での運営となり、なかなか大変な状況です。投稿や投稿依頼もなかなか進展せず、一つの体裁になるまで非常に日時を要し、早く投稿いただいた方には本当にご迷惑をかけました。

農村には、もう農村特有の問題などは無いなどの論議も有りますが、農薬問題、農薬に起因する環境ホルモン問題、農業災害等々、未解決な問題が山積しています。また、農協組織が展開している高齢者福祉活動も、まだ始まったばかりで、今後の展開について解決すべき問題が多くあります。

今後とも、多くの方々の投稿を期待したいと思います。

(E. O)

編 集 委 員 越山健二、渡辺正男、北川鉄人

---

富山県農村医学研究会誌 第32巻平成13年3月20日印刷・3月25日発行

富山県高岡市永楽町5番10号・富山県厚生連内 電話 富山(0766)20-7774

編集、発行所 富山県農村医学研究会 事務局長 堀江耕治

印刷所 中央印刷株式会社 富山市下奥井町 電話(076)432-6572

---